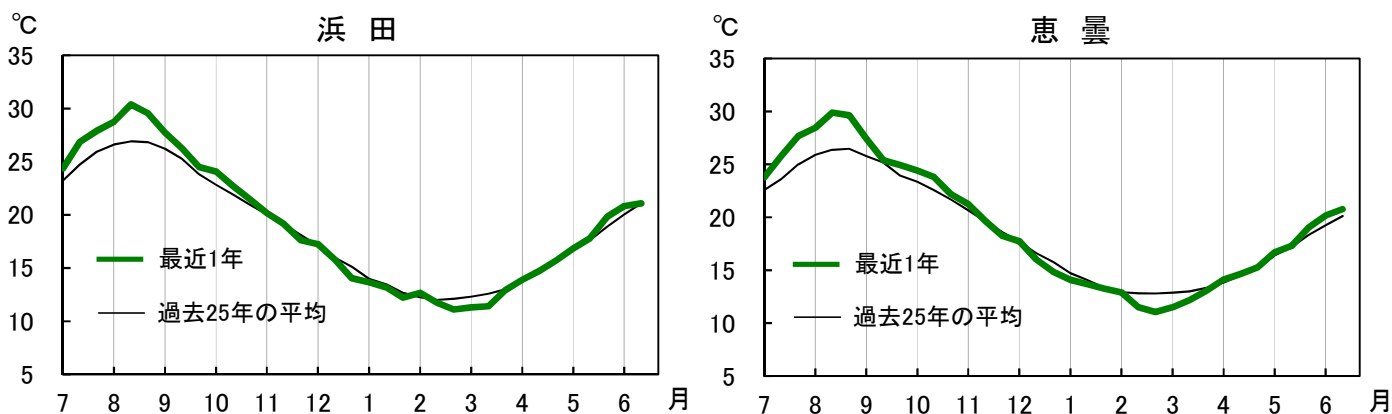




## 《5～6月の海況》

5月	月平均	平年差	評価
浜田	18.2℃	+0.3℃	平年並み
恵曇	17.8℃	+0.4℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では5月は上・中旬は「平年並み」でしたが、下旬に「かなり高め」に急転し、6月に入り、上旬は「やや高め」、中旬は「平年並み」で経過しています。一方、恵曇地区では5月上・中旬は浜田地区と同様に「平年並み」でしたが、5月下旬に「やや高め」に転じ、6月に入り中旬までは「やや高め」の傾向で経過しています。



## 《5月の漁況》

## 【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。主要魚種であるマアジ、サバ類はそれぞれ平年の7割、3割となりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ、マイワシ、サバ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量はそれぞれ平年を下回りました。全体的に不漁でしたが、ブリは過去5年間で最も多い漁獲量となりました。

## 【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではスルメイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は201kgで平年を上回りました。これから漁の本格化が期待されるケンサキイカの漁獲量は8kgに留まりました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではスルメイカのみ（全体の100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は89kgで平年並みでした。

## 【沖合底びき網漁業】

浜田港ではケンサキイカ主体の漁況で、1統1航海当たり漁獲量は平年並みの水揚げとなりました。前年低調であったケンサキイカがまとまって漁獲され、前年の6.2倍、平年の3.2倍の水揚げとなりました。またキダイも好調に推移し、平年の2.4倍の水揚げがありました。一方、ムシガレイは低調に推移し、平年の7割の水揚げに留まりました。

## 【小型底びき網漁業】

和江、久手両地区ともソウハチ主体の漁況で、1隻1航海当たりの漁獲量は両地区とも平年並みの水揚げとなりました。両地区ともソウハチは平年の1.3倍の水揚げとなり、またヒレグロは、和江地区では平年の1.4倍、久手地区では平年の4.4倍の水揚げで好調に推移しました。一方、この時期漁がまとまるニギスはやや低調で、両地区とも平年を下回りました。

## 【定置網漁業】

石見地区ではブリ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではブリ、サワラ類ともに過去5年間で最大だったものの、この時期主体となるマアジ、ケンサキイカがそれぞれ平年の2割だったため、結果として全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではブリ主体の漁況で、1統当りではブリを含めた多くの魚種が平年を上回ったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではブリ、マアジ主体の漁況で、1統当りではブリ、マアジを含めた多くの魚種が平年並みだったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

## 【釣・罾】

出雲地区ではブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は30kgで平年並みでした。石見地区でブリ、ヒラマサ、アマダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は24kgで平年並みでした。隠岐地区ではカサゴ・メバル類、ブリ、スルメイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年並みでした。全地区で漁獲の主体になっているブリは、出雲地区では平年並みでしたが、石見・隠岐地区では平年を上回る漁況でした。

【平成 26 年 5 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サバ類	177トン	118%	60%	5.7トン	84%	50%	▲
	西郷	マアジ、ブリ、マイワシ	2,856トン	84%	49%	35.7トン	81%	49%	▲
	浦郷	ブリ、マアジ、サバ類	1,352トン	107%	54%	20.8トン	87%	40%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	スルメイカ	2トン	50%	84%	201kg	113%	188%	◎
	西郷	スルメイカ	14トン	3360%	116%	89kg	129%	106%	○
沖合 底びき網	浜田	ケンサキイカ	235トン	87%	76%	11.2トン	112%	98%	○
小型 底びき網	久手	ソウハチ	120トン	90%	75%	748kg	93%	102%	○
	和江	ソウハチ	257トン	67%	83%	879kg	91%	105%	○
定置網 (大型)	浜田	ブリ、ヒラマサ	8トン	32%	40%	353 kg	33%	73%	○
	美保関	ブリ、サワラ類	122トン	147%	121%	1.2トン	143%	115%	○
	浦郷	ブリ、マアジ	68トン	114%	166%	2.6トン	114%	163%	◎
釣り・縄	仁摩	ブリ	10トン	156%	98%	34kg	172%	127%	◎
	大社	ブリ	24トン	72%	69%	46kg	98%	93%	○
	西郷	スルメイカ、カサゴ・メバル類	5トン	93%	51%	29kg	132%	102%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした。

# 【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年6月17日

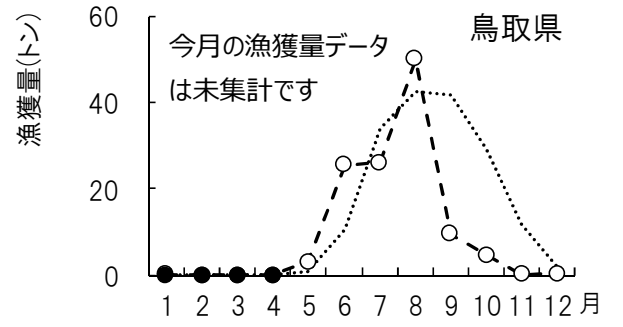
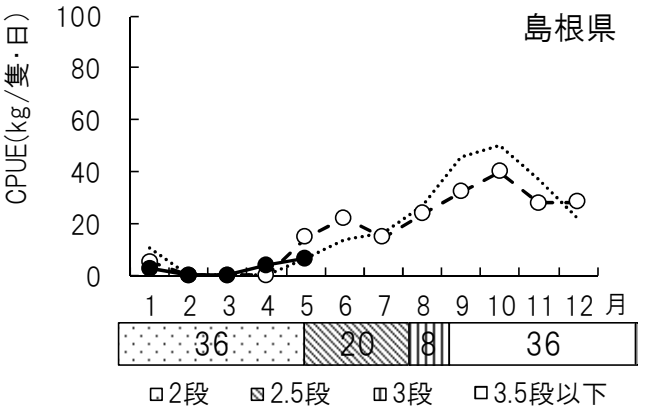
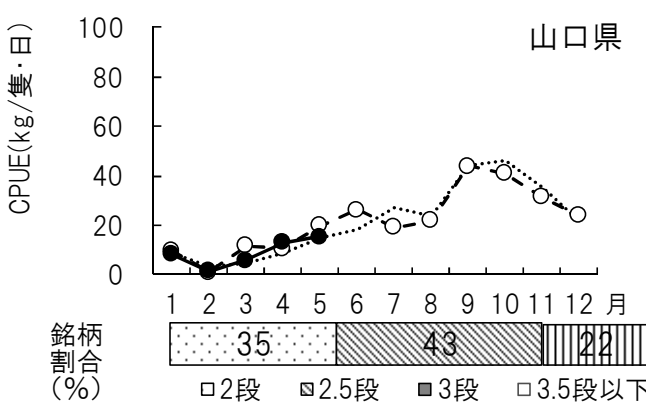
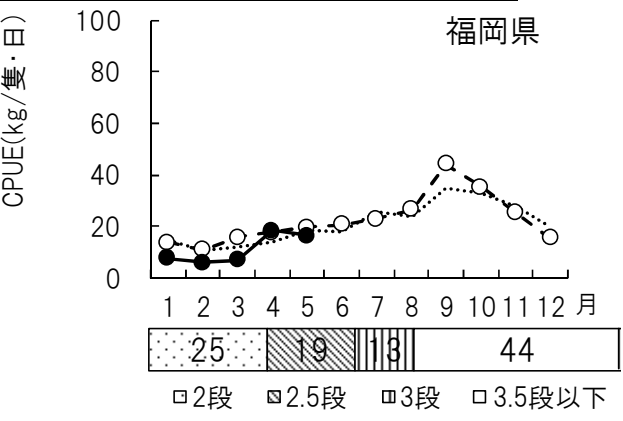
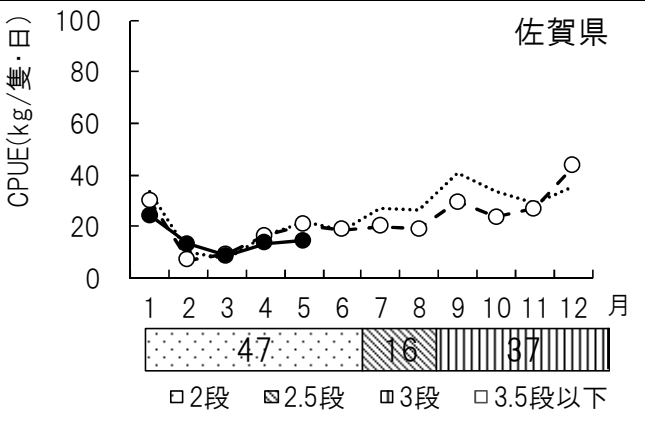
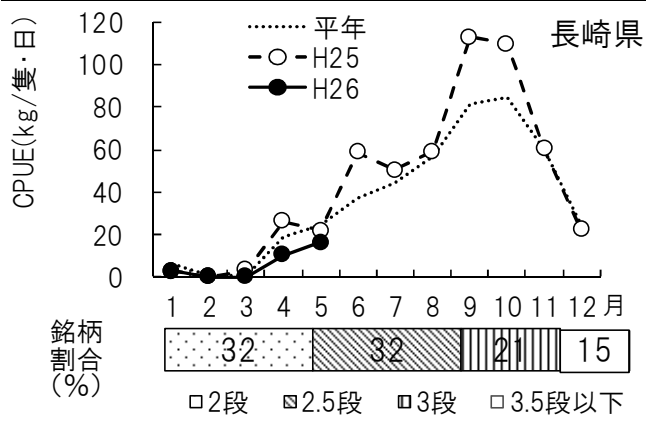
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

## I : 5月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

前月に続き全般的に低調な漁況であったようです。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	5月の漁獲量は前年・平年を下回りました(前年比56%、平年比55%)。	佐賀県	標本港の水揚量は前年・平年を大きく下回りました(前年比55%、平年比49%)。	福岡県	代表港の5月の漁獲量は前年比76%、平年比87%でした。また1～5月の累積漁獲量は前年比57%、平年比68%と4月に引き続き低調に推移しています。
山口県	代表2港の漁獲量は前年・平年を大きく下回りました(前年比43%、平年比67%)。	島根県	主要7港の水揚量は3.4トンで、前年並みで平年を上回りました(前年比107%、平年比342%)。	鳥取県	5月分の漁獲量については集計中です。6月に入り、ケンサキイカ漁に向かう沿岸漁船がはじめましたが、まだまとまった漁獲はあがりません。



※平年は過去5年(H21～H25)の平均値

II:6月上旬の底層水温

長崎県	6月上旬は西沖は観測していません。	佐賀県	壱岐水道は19.2～19.6℃で高め、対馬東水道は15.4～19.2℃で高めでした。	福岡県	底層水温は、沿岸域で18～19℃台とやや高めとなっています。沖合域は、15～18℃台で平年並みからやや高めとなっています。
山口県	底層水温は冷水域を除き、14～18℃台で平年並み～やや高めでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～16℃で「平年並み～やや高め」、浜田沖は14～17℃で「やや高め～はなはだ高め」、高山岬は3～17℃で「平年並み～はなはだ高め」でした。	鳥取県	水深100m前後の底層水温は15～16℃前後で、先月より約2℃上昇しました。

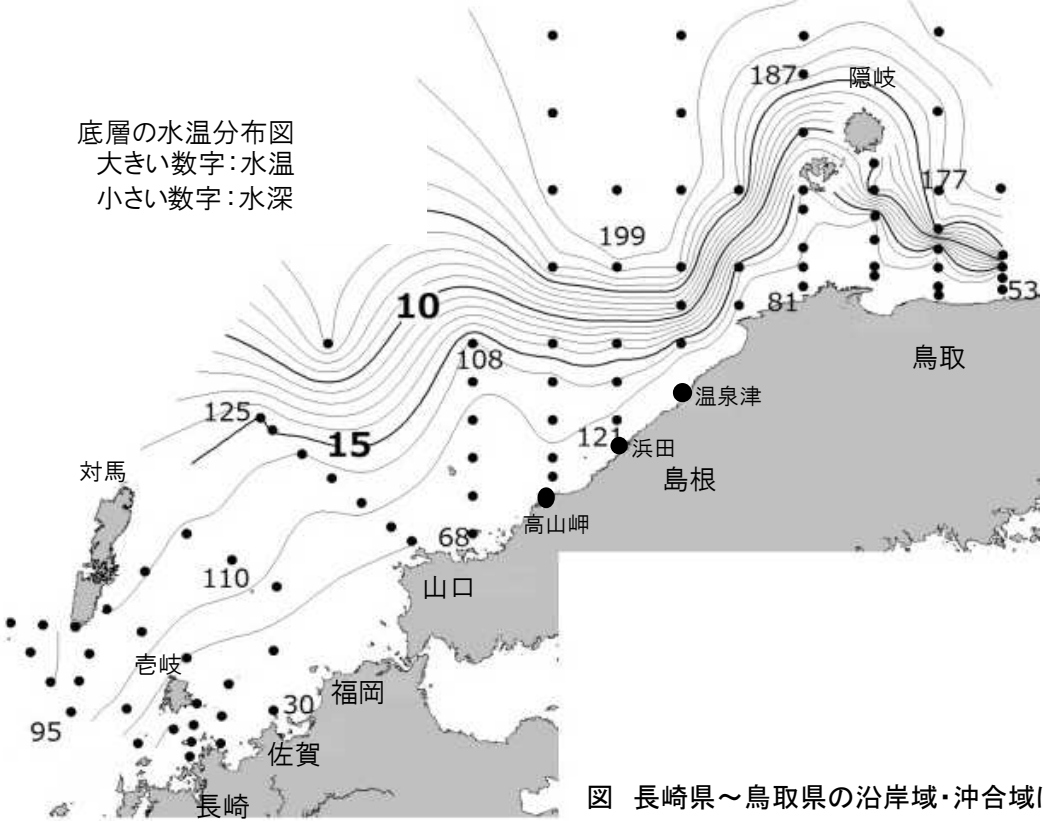


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図